

館林市総合計画審議会 第2回全体会 議事録【概要】

日時

令和2年1月24日（金）午後2時から午後3時40分まで

場所

館林市文化会館会館棟2階 3号室

出席者

【審議会委員】34名

井田繁美委員 亀山みち子委員 齊藤のぶ江委員 吉澤秀明委員 中嶋直一委員 平井玲子委員 田沼昇委員 角田好二委員 中村美子委員 藤倉功也委員 真中千明委員 宮原祐一郎委員 岩崎裕一委員 斉藤貢一委員 権田昌弘委員 石川京子委員 河本尚樹委員 関口百合子委員 曾原幸子委員 野村和利委員 平林恵美委員 森静子委員 渋谷理津子委員 柴田信委員 荒川博人委員 石井雅子委員 市川顕委員 金子悟委員 佐藤聡委員 中村喬委員 三田英彦委員 蓼沼直治委員 櫻井正廣委員 川村幸人委員

【策定委員会委員】12名

市長 副市長 教育長 総務部長 市民環境部長 保健福祉部長 経済部長 都市建設部長 議会事務局長 教育次長 秘書課長 医療事務組合事務局長

【策定事務局参事】（専門部会正副部会長のみ）9名

安全安心課長 地球環境課長 社会福祉課長 健康推進課長 生涯学習課長 こども福祉課長 産業政策課長 行政課長 市民協働課長

【事務局】7名

政策企画部長 企画課長 政策推進係長 政策推進係職員4名

1 会議内容 【PDF：次第】

(1) 開会

(2) 市長あいさつ【PDF：市長あいさつ】

(3) 委嘱状の交付

市長より、委嘱状を交付しました。

(4) 審議会委員自己紹介 【PDF：総合計画審議会委員名簿】

(5) 審議会役員の再選出

会長に角田好二委員が選任されました。

(6) 議事

①調査及び審議のための資料について

事務局より、「第五次総合計画アウトカム別指標 実績報告書」(資料1)、「まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績報告書」(資料2)、「第六次総合計画・第二期総合戦略策定のためのアンケート調査 分析資料」(資料3)について説明しました。

(委員からの意見・質問)

- ・説明のあった資料の見方について教えてもらえますか。資料1は部会で使用されると予想できますが、資料2、3は部会で使用されるかそれとも全体会で使用されるのでしょうか。

⇒資料1については、今後事務局から素案を示すので、資料1と照らし合わせながら過不足がないか検証をいただくものです。また、資料2についても各部会に通ずるものがあるので、部会の中での審議あるいは総合戦略の全体的な方向性について今後の検討材料、審議の土台としてご活用いただければと思います。資料3については市民ニーズの把握ということで全体会・部会でご活用いただきたいと思います。

- ・資料1について、何をいつまでにしたいのかがよく分かりません。目標はきちんと数値化すべきことと、目標を達成するための手段の妥当性と、それに対してどんな努力をしたのかという記載がないと、計画策定の参考にならないと思います。また、資料2について、単に数値の上昇、減少だけではよく分からないので、もっと分析をすべきだと思われます。

⇒資料1について、目標が矢印で示されていて分かりづらいとのことでしたが、今後は目標をKPIという数値に置き換えることができればと考えています。また、資料2については、KPIを定めて客観的な数字が分かるようにしたものです。目標値も現状からなるべく下がらないように設定したものです。今後はKPIの設定の見直しを図っていきます。

- ・この実績報告を読んでも中身が曖昧でよく分かりません。私が考えるには、基本

計画の施策あるいは施策の方向を指標で評価するようなやり方ではなく、実施計画で実際に予算がついた個別事業の成果をまとめたものがないと参考になりません。後期基本計画の冊子に記載のある「業務棚卸」を資料として出してもらいたいと思います。

⇒今回の資料は、指標を見ながらどういった現状となっているのか、施策をマクロ的に見るというものです。業務棚卸については、ホームページでも公開しているが、全体会の場で審議をいただくにはかなりのボリュームがあるので、部会に分かれた後で、資料として出せるか検討したいと思います。

⇒内部用のものであるが、事業評価を行うように指示しています。約290の事業があるので、部会でこの資料を示せばと考えています。

・我々は、後ろを向いて何か分析をしようという立場ではないという認識でよいのでしょうか。この分析に基づいて前のことを考えるものだという認識でいますが、これらの資料は後ろを向いて一つ一つ掘り下げようという資料にも見えるので、確認をしたいと思います。

⇒資料はあくまで事務担当者が分析をした結果であり、今後第六次総合計画及び第二期総合戦略の策定にあたり参考としていただきたいものです。

・各部会ではもう少し深掘りした分析結果が提示されるのでしょうか。

⇒事業評価については提示できる状態です。しかし、総合戦略の資料については、現時点ではここまでのものとなっています。

⇒前回、委員からレビューやレポートが事業評価とともに必要だということでご指摘いただいたが、この点についてはそのとおりであると思っています。ただ、事業評価に関してはそこまで至っていないというのが現実です。

・部会ごとに資料を出すとなると出来栄がバラバラになり、それを総合計画に反映させると問題が出ると思いますので、もし欲しい資料があれば、全体会で資料を出したほうがよいと思います。また、これは総合計画の進め方に結びつくことなので、会長、副会長から申請いただければありがたいと思います。それと、市の提出する素案と、委員の考える進め方が合致していないように思えますが、それをまとめていくのも会長、副会長にお願いできればと思います。

その他に質問及び意見はありませんでした。

②総合計画・総合戦略の体系図について

事務局委より、「第六次総合計画・第二期総合戦略 体系図（案）」（資料4）、「館林市第六次総合計画 基本目的（案）」（資料5）について説明しました。

（委員からの質問・意見）

- ・資料4の「本市の視点」について、5つの観点があるが、いずれにも「居心地の良い」というワードが入っているため、「今後の居心地の良いまちづくりに新たに盛り込む5つの視点」にした方が良いと思います。「ウォーカブル」という言葉は一般市民からすると馴染みのない言葉で、分かりづらいのではないのでしょうか。

⇒これはあくまで体系図の案ということで、総合計画・総合戦略の体系がイメージしやすいように作ったものです。また、「ウォーカブル」という言葉は国土交通省が積極的に推進をしているところなので、そういった観点からあくまで本市の視点という意味での記載なのでご理解をいただきたいと思います。

- ・横文字の言葉は確かに分かりづらいので、※印で解説を入れてみてはどうでしょうか。一方で、未来を見る若者の視点からすると惹かれる言葉ではあると思います。
- ・「ウォーカブル」という言葉は国土交通省や経済産業省が使い始め、2～3年後には一般的に使われる言葉になると予想されます。

- ・キーワードに「強靱」と「持続可能」という言葉がありますが、一般的には「強靱性」や「持続性」と使います。それから、基本目的の一番下の行政経営部会の「市民と協働して自立した持続可能なまち」とありますが、市民を下に見ているという印象を受けます。また、自立という言葉の主語が分かりません。さらに、「攻めと守り」というキーワードも分かりづらいため、修正の余地があると思います。

⇒特に将来都市像については、現時点で可能な限りのキーワードを並べたもので、これを全て入れるという訳ではないのでご了承いただきたいと思います。また、協働については、これは行政経営の部会ということなので、あくまで行政を主体と考えていただければと思います。今後は分かりやすい表現となるよう努めていきます。

- ・もっと館林の強み、弱みを入れた方が良いと思います。これだとどこでも使え

るような体系図になっています。また、これを見れば政策として走り出せる手前くらいのものにした方がよいのではないかと思います。

- ・それぞれの部会の基本目的について、言葉がクロスしているのではないのでしょうか。
- ・基本目的についてはそれぞれの部会で審議いただければと思います。また、本市の視点で挙げられているのはハードウェアに関することが多いと思います。「人づくり」のようなソフトウェアの観点も考えていただければと思います。

その他に質問及び意見はありませんでした。

③総合計画策定スケジュール 【PDF：総合計画策定スケジュール】

事務局より、「総合計画策定スケジュール」（資料6）について説明しました。

（委員からの意見・質問）

- ・次回の部会で事業評価のレビュー等を元に審議しますが、その資料はいつ頃もらえるのでしょうか。
- ⇒第4回を見据えての資料になるので、なるべく早めに送付できればと考えていますが、資料の量も多いので、その辺りはご了承いただきたいと思います。

その他に質問及び意見はありませんでした。

(7) 閉会